

解答

一

- 問一 問一 IV
問二 問二 イ
問三 問三 A ウ B エ
問四 問四 C ア D イ E オ
問五 問五 実体に対する空白
問六 問六 自分らしいものを自分の周りに置いて、安心したいという（気持ち。）
問七 問七 ア
問八 問八 ウ
問九 問九 ウ

二

- 問一 問一 ウ
問二 問二 A ●色使い ●構図 ●物語感
B 単純で大胆
問三 問三 エ
問四 問四 ただほめてくれたのだと思った。
問五 問五 木下さんと自分の絵の実力が、大きくかけ離れてしまったこと。
問六 問六 イ、オ
問七 問七 イ
問八 問八 私はいても
問九 問九 木下さんが ー ということ

三

- ① 楽観 ② 收拾 ③ 推 ④ 劇薬 ⑤ 帰郷

四

- ① こうらぐち ② まぢか ③ おくがい ④ しゃくや ⑤ なこり

五

- ① おかめ ② しか ③ へび ④ なくせ ⑤ どろぼう

解説

一

問六 「(部屋と) 自分の中身とのあいだに、ぐしゃぐしゃと詰め物をしておくと、クッションみたいな安心ができて」「自分であるという感覚を楽しんでいるのでは」「きれいに片付けて何にもないと、ひじょうに不安になる」ということを彼女は告白する」と説明されている部分をまとめましょう。

二

問五 直前の「木下さんはいつからこんなに絵が上手になったのだろう。」ということから、木下さんの絵の実力は分とは大きくかけ離れたものになったと感じたことが読み取れます。